



|              |  |
|--------------|--|
| Title        | 手書きの特徴を取り入れたワープロ文章に関する研究   |
| Author(s)    | 才木, 常正   |
| Citation     | 大阪大学, 2003, 博士論文   |
| Version Type |  |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/44333">https://hdl.handle.net/11094/44333</a>  |
| rights       |  |
| Note         | 著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> 大阪大学の博士論文について |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

|            |   |
|------------|---|
| 氏名         | 才木常正  |
| 博士の専攻分野の名称 | 博士(工学)  |
| 学位記番号      | 第17932号   |
| 学位授与年月日    | 平成15年3月25日  |
| 学位授与の要件    | 学位規則第4条第1項該当<br>基礎工学研究科システム人間系専攻                        |
| 学位論文名      | 手書きの特徴を取り入れたワープロ文章に関する研究                                |
| 論文審査委員     | (主査)<br>教授 井口 征士<br>(副査)<br>教授 谷内田正彦 教授 西田 正吾 助教授 佐藤 宏介 |

### 論文内容の要旨

一般的に、ワープロ文章は整って読み易く、手書き文章は個性的で温かみがある。このように、手書き文章とワープロ文章はそれぞれ異なった良い印象を与える。そこで、本論文は手書き文章の特徴を表す物理特性をワープロ文章に取り入れ、心理特性がより良くなるワープロ文章の開発を目的とした研究をまとめたものであり、全8章で構成している。

第1章は序論であり、本研究の背景及び目的について述べた。

第2、3章では、手書き文章とワープロ文章の物理特性として文字重心間隔等の揺らぎ及び文字幅等の文字形状を統計的に調べ、手書き文章とワープロ文章の物理特性の違いを把握した。そして、一般的に手書き文章の漢字よりひらがなが相対的に小さいという性質をヒントに、第4、5章では漢字よりひらがなフォントサイズを小さくしたワープロ文章を作成し物理特性及び心理特性について検討した。その結果、漢字に対するひらがなフォントサイズ比を0.86にすることでワープロ文章の物理特性が手書き文章のそれに近づき、好感度の高い文章になることが明らかになった。

第6章では、手書き文章の一つ一つの文字形状が異なることから、個々のワープロ文字を手書き文字の形状にすることで手書き文章の特徴を取り入れたワープロ文章を作成し心理特性について検討した。更に第7章では、今後普及すると推測される手書き風のワープロ文章についても同様の検討を行った。そして、個々の手書き文字の形状をワープロ文字に取り入れることで種々の印象が変化することを示した。

第8章では、手書き風のワープロ文章において既存のワードプロセッサで用いる方法で文字を配置すると読み手に違和感を与える可能性があることから、熟練者の手書き文章から文字構造を考慮した文字配置モデルを考え、これにより手書き風ワープロ文章の印刷方法を提案した。この印字方法を用いると、既存のワードプロセッサの印字方法より、好感度が高い手書き風ワープロ文章の作成が可能となった。

最後に第9章では、本研究で得られた結果をまとめて述べ、今後の課題について述べた。

## 論文審査の結果の要旨

本論文は手書き文章の特徴を表す物理特性をワープロ文章に取り入れ、心理特性がより良くなるワープロ文章の開発研究をまとめたものである。

第1の主張は、手書き文章とワープロ文章の物理特性として文字重心間隔等の揺らぎおよび文字幅等の文字形状を統計的に調べ、手書き文章とワープロ文章の物理特性の違いを比較した結果、手書き文章では漢字よりひらがなが相対的に小さいという性質を利用して、漢字よりひらがなフォントサイズを小さくしたワープロ文章を作成し物理特性及び心理特性について検討している。その結果、漢字に対するひらがなフォントサイズ比を0.8程度にすることでワープロ文章の物理特性が手書き文革のそれに近づき、好感度の高い文章になることを現実している。

第2の主張は、ワープロ文字を手書き文字の形状にすることで手書き文章の特徴を取り入れたワープロ文章を作成することである。ここでは心理特性について検討し、今後普及すると予測される手書き風のワープロ文章の構成法について述べている。そして、熟練者の手書き文章から文字構造を考慮した文字配置モデルを考え、これにより手書き風ワープロ文章の印刷方法を提案した。この印字方法を用いると、既存のワードプロセッサの印字方法より、好感度が高い手書き風ワープロ文章の作成が可能となることを示している。

以上のように、本論文は手書き文章の特徴を取り入れたワープロ文章の作成手法を提案したもので、文書出力の分野に大きな貢献をしており、博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。